西東京市市民協働推進センター

平成30年度第2回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成30年5月15日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第2会議室
■出席委員：柿本委員、熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中委員＜以上8名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進課係長

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、4月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：市民ボランティアアートみーるの自主化に向けての相談会はアートみーるからの依頼か。

事務局：そうだ。西東京市の事業としてスタートした人達が集まったもので、団体として一歩踏み出すかどうかとの相談だ。

委　員：団体の運営などに関する相談が増えているので、団体を作る前の段階を踏んだ相談のステップは大切だと思った。

委　員：ボランティアで集まっている市民なので、組織化をしていくには段階を踏む必要があると感じている。

委員長：新規登録団体のさつきファミリーは具体的にどんな活動をしているのか。

事務局：現在はヨゼフホームで学習支援を行っている。メンバーも多世代である。

委　員：気ままサロンは新しい登録団体だと思うが、30年度に登録更新しなかった理由はあるのか。

事務局：代表が長野県に引越ししたことと、代わりに代表をしてくれる方がいないため登録を抹消して欲しいとのことだ。

委　員：他の団体に関しての理由はわかるか。

事務局：健康ゆかいクラブ、西東京市けん玉協会、NPO法人循環型地域社会研究会は代表とメンバーが高齢のため団体の存続が難しいとのこと。ちゃんぷるーは、はとぽっぽと一緒に活動をすることになった。子ども絵画教室コスモスは講師の引退と市民会館建替えにより会場の確保が困難なため活動を休止するためである。

委員長：相談の数が増加しているようだが、要因はあるのか。

事務局：センター長が交代したことにより、挨拶を兼ねての来訪により相談が増えた。

2. 5月以降の事業について

事務局より、5月以降の実施事業について説明があった。

委　員：駅前フェスタは保谷駅前公民館主催か。

事務局：そうだ。昨年相談のあった市民が団体を立ち上げ講演会を開くまでに成長し、具体的な活動につながった。公民館からの要望もあり昨年度に引続き参加を決定した。

委員長：南部地域協力ネットワークに参加とあるが、西部地域協力ネットワークには参加しないのか。

事務局：ゆめこらぼが南町にある関係で南部地域協力ネットワークに参加する。

委　員：役員はやるのか。
事務局：やらない。前年で役員の任期を満了している。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がないので確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重要事業の企画）について

事務局より、協働のまちづくりワークショップ（企画案）について説明があった。

委　員：地域連携推進事業とはなにか。またワークショップの経緯が知りたい。

事務局：計画の中にある重点事業の1つだ。「行政と協働のまちづくりワークショップ」になってから4年目になる。以前は「協働を考えるシンポジウム」として開催されていた。

委　員：協働を推進していく中で課題解決のきっかけに結びつけるとあるが、想定される課題のテーマと講演が結びつかない。講演は毎年テーマを決めているのか、それとも4年を通しての共通の課題があり各論的に具体化されるのか。

事務局：毎回課題を決定している。今回は男女平等の視点からみた防災での地域課題を検討している。

委　員：男女平等参画そのもので考える場合もあるが、企業も興味があるのは働きながらの介護や子育てなど、いろいろな視点があるのでテーマとして面白いと思う。防災をテーマに講師をさがしているのか。

事務局：女性目線という観点で講師を探している。企業は大企業ではなく、商店などを考えている。

委　員：防災となった場合、対象である参加団体の30名はとても大切な役割になるのではないか。対象の市民活動団体はどのような団体を考えているのか。

事務局：基本は登録団体だが他の団体への声掛けもする。

委　員：登録団体が主だとは思うが、防災がテーマであれば、消防団、商工会、商店街などいろいろなつながりがあり、防災に関するプロフェッショナルな意見もでるのではないか。薬局なども災害があった場合どのようなルートで連絡をして資材を回していくなどの具体的な話も出てくると考えられる。市民活動団体や企業の参加者を具体的に決めていくことも大切だと思う。

委　員：テーマによりワークショップは変わってくると思うが、出たものを持ち帰ってもらい実践に結び付けてもらえるのが理想だ。防災だと具体的な意見も出てくると思うので共有できるとよい。

委　員：実践に結び付けられるようワークショップの後、どのような実践に結び付いたかなど、宿題を出しても良いのではないか。

委　員：男女平等参画で女性面での防災なら避難所の性犯罪も知って欲しい。

委　員：性差だが男性と女性だけで良いのか。

事務局：その通りで、西東京市でも男女平等参画推進計画の第4期を作成中だが、男女だけでよいかとの意見もある。今期は第3期で男女との文言となっている。

委　員：例年の参加者の男女比はどうか。

事務局：女性が多いようだが、気にならない程度におおよそ半々である。
委員長：講演のテーマは防災が盛り込まれるのか。
事務局：講演では男女平等の切り口で協働を学び、ワークショップでは西東京市の事例として防災を盛り込む予定だ。
委員長：企画が固まってからのスケジュールはどうなるか。
事務局：ここでの意見を反映させ、今月中には講師を含め内容を決定していく。
委　員：行政は防災や男女平等の勉強をしているので、内容が被らないような配慮が必要ではないか。
事務局：行政の参加者は協働コミュニティ課を通し各課に声掛けをする。今年度は新人職員も 38 名いるとのこと。協働に関する知識を勉強してもらえる場であることも伝え、研修への参加のお願いをする予定だ。
委　員：今までのワークショップはどんなテーマだったのか。
事務局：今年度で 4 回目となるが第 1 回が「連携と協働による課題解決」、第 2 回「災害が起きた時、西東京市でなにができるか話し合おう！」、第 3 回「協働の基本のき」だ。
委　員：男女平等参画と協働の関係性はどうなるのか。
事務局：男女平等参画の所管が協働コミュニティ課。男女平等の視点の協働のワークショップが無かったので、防災を絡めてみた。
委　員：確かに過去のテーマでは男女平等参画に紐づいたものではなかったが協働のまちづくりと男女平等参画をどう結び付けるのか。
事務局：避難所での性被害や女性トイレの比率なども問題となっている。わかっていても行政が対応しきれないものもあるので、役割や仕組みを共有し理解し合い考える場とすることが大切だと考えている。
委　員：気づきがもたらせるようなことは大切で、それを行政と市民活動団体が知っていくという場づくりになると良いのではないか。

2. 自主企画委員会（新規事業）の進め方について（フリーディスカッション）

事務局より、自主企画委員会の経緯と進め方（案）、(仮称)自主企画委員会 企画・運営ガイドライン(案)について説明があった。

委　員：登録団体に声掛けをし、自主企画委員会に関心のある方に集まってもらい雑談の中から面白そうな企画が出来上がっていくことか。
事務局：そうだ。顔を合わせて雑談から生まれるものを期待している。
委　員：呼びかけるときに難しいのは、いろいろな意見を一緒にみんなで話しながら新しいものを生み出していけるかもしれないよ、という打ち出し方が良いのではないかと思う。私たちの公園では「あったらいいなをみんなでつくるプロジェクト」をやっているが、その中からまちづくりに興味のある方でネットワークができた中で、何か一つの軸があれば企画ができ、いろいろなプロジェクトが生まれてくる。調整は必要だが、現在は実行委員会形式で企画を行っている。最初のきっかけは難しいが、人が集まりみんながつながると生まれてくるものがある。人が集まる場を作ることがゆめこらぼとしては重要なのではないか。
委　員：魅力的なネーミングは重要だと思う。また、集まる日時は、選択肢として 2 パターンあっても良いのではないか。

委　員：登録している団体の方々は他の方達と一緒になって何かやろうと思っているのか、自分達の団体だけでいいと考えているのでは、手法が違ってくるのではないか。
委員長：どういう立ち位置のメンバーを募るのかは絞り切れていない。自分達の呼びたい講師を呼ぶことができるメリットもある。
委　員：1団体だけではできないことをやれる場所をつくるという話があり、ゆめこらぼの主催するものに登録団体の声が反映されているということ、自主企画で登録団体の声を届けていくという主旨が大きかったと思う。
委員長：同じ分野が集まれば、企画が重なることも考えられる。
委　員：まったく違う団体が協力してくれるか。
委員長：そこに化学反応がおこる可能性もある。
委　員：活動のテーマや分野が共通することもあるが、分野が異なっても運営にかかわることなどで、テーマの共通性はあると思う。
委　員：なにが出るかわからないので、必ず講座をするための集まりだと厳しいと思う。
事務局：今年度の新規事業ではあるが、自主企画委員だけでなく事務局で実施することは考えている。
事務局：昨年度の要約を資料として説明したが、一つの仮説としての企画がニーズに合っているのかということが自主企画のスタートであり、仮説に対する証明は取り組むことによってなされていく。協議をしていくプロセスの中でなにか生まれるかもしれないが、最終的に企画ができるかどうかは次年度に持ち越しになることも考えられる。
委員長：雑談する場をつくることにより、いろいろな企画が生まれるので、場を作る機会でも良いのではないか。場に集まることに価値があるのではないかという議論も出ていた。
委　員：問題意識があるとみんなは動くが、ただ集まり雑談するだけでは企画として成り立つのが難しい。
委　員：自主企画委員会については登録団体の中からこんなことやりたいと声があがってきたことにより始まったことか。
事務局：運営委員会サイドが発信したことだ。運営委員会の仮説をどのように取り組むかということだ。運営の部分で共通する悩みはあるのか、1団体ではできないことを自主企画委員会を通してやってみませんかなど、協議の中からやってみたくなるようなものが生まれるまでには混沌とするとは考えられる。
委　員：集まるための呼び水になるものが必要だと思う。
委　員：課題やテーマは必要だ。
委　員：テーマは「ゆめを語り合おう」など、できれば明るいテーマが良い。
委　員：子どもが成長した時にまちがどうなっているかなど、少し先を見据えたテーマも考えられる。
委　員：登録団体は大きく言えば全てまちづくりに関わっていると思う。まるで関心がない人たちではないし、異分野同士でもつながらなければできないこともある。
委員長：ゆめこらぼはそういう仕掛けをしている。
委　員：登録団体より4名から6名募るとあるが、それ以上に集まった場合はどうするのか。
委　員：一団体1名とか決めればよい。
事務局：「ゆめを語ろう」の企画テーマで声掛け文を作成する。

委員長：もう一歩進んだ具体案を出して欲しい。ガイドラインについてはどうか。
事務局：ガイドランに関しては、今後議論を進めることとする。
委員長：現時点で確認したいことはないか。
委　員：実施となった場合、運営委員の中からも自主企画委員として参加するのか。
事務局：委員会の構成に運営委員も入っている。
委　員：毎回同じ人が参加することになるのか。
委員長：委員として通年で参加するか、一回ごとに決めるかはまだ固まってはいない。
事務局：テーマを「ゆめを語ろう」とし、案内文、スケジュールを次回までに作成する。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：6 月 19 日（火）19 時～21 時 00 分
会場：イングビル 3 階　第 1,2 会議室